

平成20年度 学校評価総括表

奈良県立高円高等学校

学校経営方針		1、魅力ある生徒を育成する学校に。	基礎学力、規範意識を土台にコミュニケーション力、自己表現力の高い人材を育成する。 授業でも、生徒会・クラブ活動でも、自ら考え、判断する習慣づけを徹底していく。	評価(3月)
		2、挑戦意欲と広い視野を持った職員を育成する学校に。	組織として動ける土壌づくりを進めるとともに、常に先を見て内外の情報収集と新規企画を立ち上げる意識を全員が共有する。	B
		3、芸術教育をリードする「誇り」と「意識」を持ち続ける学校に。	県立唯一の芸術校として強い力とマインドを持ってチャレンジを続ける学校、アピールを続ける学校にする。	
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具 体 的 目 標	
個々の取り組みは職員の努力で、一応の成果を見ることができた。ひとりひとりの生徒に向き合うこと(生活指導、教科指導、進路指導、クラブ指導等)と、学校全体としてのシステム整備、企画立案能力をアップすることは対極にあるものではなく、常に併行して行われ、相乗効果をあげていくべきものである。全員がこのスタンスに立つことが課題である。	教科指導	基礎基本の定着を図る。特に全ての教科学習の土台にもなる語彙力と文章を読み解く力、文章を組み立てる力のアップに全力を注ぐ。	「読む」「書く」機会をできるだけ多く設ける。2年目に入る朝の10分間「下学上達」は、検証しながら継続。「総合的な学習の時間」は、自己表現力の養成に特化する。	
	生徒指導等	状況判断ができる生徒、社会でも通用する生徒を育てる。	生徒指導(基本的な生活習慣の徹底と社会的ルールの理解)を基本として、生徒会活動やクラブ活動等を通じてコミュニケーション力を上げ、人と人との関わりの中で学ぶ大切さを教えていく。	
	学校運営	職員全員が経営者のつもりで常に全体を見渡し、先を見て業務を遂行する。	教職員すべてが学校の将来像を創るつもりで当面の目標とともに挑戦的目標も明示する。	
	研究・研修	職員は常に勉強し続ける姿勢を維持し、新しい知識の習得を積極的に遂行する。	各職員独自の目標設定でよいが、生徒・学校に還元することを常に考える。	
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評 価 (3 月)	次 年 度 の 主 な 課 題
教科指導	基礎学力の定着	朝の「下学上達」の時間の取り組み(2年目)を継続。各学年 年3回(第3学年は2回)チェックを行い各学年のスタッフが内容と成果の検証を行う。さらに、授業重視の姿勢を徹底する。	A	◎11月に1・2年全員対象に授業評価を実施、さらに12月、保護者対象に学校評価を実施。この結果をふまえシステムとしての定着(6・11月の授業公開月間に実施し、時系列の変化から改善状況チェック)と授業内容改善(生徒の理解度チェック、心理学をベースにしたモチベーションアップ)をねらう。◎引き続き台湾教育旅行の受入決定◎新教育課程の試行と併行しての中期的プランの構築(まず美術科・デザイン科さらに普通科類型の再考)◎自己表現力の育成に関し、新企画の職員内募集を行うなど意識づけを徹底し、「総合」「キャリア教育」との関連性も模索する。
	「総合的な学習の時間」新企画の立ち上げ	新聞記事の評論、小論文指導、ディベート、講演の要点聞き取りなどを通じて、「話す」「書く」による自己表現力のアップを目指し、合わせて対人関係能力の伸長を図る。	B	
	授業公開と授業評価	6月と11月を授業公開月間と制定。他教科、事務職、保護者、学校評議員等、関係する多くの方々の来訪を計画し、この機会をとらえ授業評価を始め、学校運営全般の評価へとつなげていく。	A	
	教育課程の再編成	普通・音楽・美術・デザイン各科の独自性と共通性、双方の観点から教科別の検証を進め、放課後及び土曜日の使い方も含め再検討課題とする。	B	
	「国際理解」教育	台湾の高校来訪、また高校生参加のイベントの紹介とともに普通科Ⅱ類型のアウトラインを組み立てる。	B	
生徒指導等	規範意識の徹底	携帯使用、頭髪、服装その他の指導は継続し、最終的に年間を通じて「問題行動ゼロ」を目指す。	B	◎インターハイ補助員参加等を通じ、集団での行動、県民としての意識、TPOの理解につなげる。◎教育相談はカウンセラーの交代があり、システムとしての定着へ試金石となる。◎クラブ活動1年生入部率未達で終わる。新たな推進策を早急に検討する。吹奏楽部県代表→関西大会出場の流れを盤石に。高質な懸垂幕昇降装置を設置完了、各科、クラブ活性化につなげたい。
	「キャリア教育」の充実	新しいプログラムも試行するが、年度末には高円高校としてのキャリア教育の全体像をまとめる。	B	
	教育相談の体制充実	好評のカウンセラーによるピア・ルームの継続、また、次のステップの模索・検討。	A	
	クラブ活動の活性化	1年普通科入部率70%を目指す。実績のデータベース化(コンクール・展覧会等も含む)完了。校内広報も検討。	B	
学校運営	人材育成	対生徒業務中心スタッフと学校運営業務中心スタッフのローテーション、また、分掌長・グループ長への若手登用、プロジェクトチームの編成などを通じて、総合力のアップを図る。自己申告シートの「目標明確化」と「有効活用」を図る。	B	◎年間を通じた広報活動は志願者増など好結果に結びついているが、それを追い風に高円高校の存在感を上げる新たな方法を付加してゆく。◎音楽科・美術科・デザイン科それぞれの将来像を県教委と真剣にディスカッションする機会を設ける。教職員人材確保、人材育成を具体的プランに展開することが急務。◎評価関連のさまざまなシステムを形式で終わらせないため、「シンプル」「重点志向」を中心の考え方に置き、統合を図ってゆく。
	中期計画	学校経営方針と財政状況、人員構成、県や国の流れを前提に高円高校の路線(行くべき道)を探る。管理職が仮説を立て職員全員の英知を集める。	B	
	広報活動の充実	継続的な志願者確保とそれにとまなう高円高校のレベルアップ。この循環を目指す。プレス、学習塾、音・美教室への広報、ホームページ等すべて全力で。人気のミュージカル上演を広報の中核に育てる。	A	
	学校評価システムの制度設計	授業評価、トータルな学校評価、人事の一環としての自己評価、学期末の総括等を統合・整理し、すべてが連動した評価システムとして機能するよう組み立てる。	B	
	事務室の改革	「処理する・支える」考えから、「考える・提案する」「学校全体をマネージする」立場での業務重視へと転換を図る。事務室に企画調整機能、戦略的予算編成機能、秘書室的機能を持たせる。	B	